

# バッテリーによるごみ収集中の火災減へ 小型家電排出方法の周知を

横浜市会議員 仁田まさとし

市会第3回定例会が9月6日に始まり、2021年度の決算審査が行われています。私は9月29日に行われた資源循環局審査で質問しました。

## 燃やすごみに混入

市内では、燃やすごみに混入したりチウムイオンバッテリーがごみ収集車の中で発火し、火災に

つながるケースが増えていきます。バッテリーは手持ち扇風機やコードレス掃除機などの充電式家電に使われています。

充電式の家電は、プラスチック製の小型家電に多く、本来はバッテリーを取り外して「燃やすごみ」で出すか、区役所にある「小型家電回収ボックス」にリサイクルする

ことが求められます。しかし、手持ち扇風機のような取り外せないものが燃やすごみに出され、火災につながる可能性を指摘しました。市からは、

バッテリーが取り外せない場合は、燃やすごみの日に単独で燃やすごみとは別の袋に入れて集積場へ出すよう、今年度中を目処に市民の協力を求める考えが示されました。

## 災害時の廃棄物対策

先日の台風15号では、被害の大きかった静岡市内で災害廃棄物の課題が浮き彫りになりました。被災後の復旧・復興へ向

けて、災害廃棄物への対応は重要です。う「災害がれき」に分かれます。しかし、このことを知っている市民は極めて少ないと考えられ、市民に分かりやすい方法を使った周知を行うべきと訴えました。

災害時のごみの出し方は①平時と同じ「生活ごみ」②交通の妨げにならない場所へ出す「片付けごみ」③業者が撤去を行う

## 保土ヶ谷工場をEV充電基地に

ごみ焼却工場の保土ヶ谷工場は現在休止中で、今後、再整備を行います。4月には地域向けの説明会を実施。地域からは煙突から出るガスの影響を心配する声が多く、市に対し、法令よりも厳しい基準の運用やデータ開示を求めました。

同工場は災害などの長期間の停電時でも、ごみの焼却と発電が継続できます。市は日産自動車と電気自動車（EV）を活用した災害連携協定を結ぶ予定です。私は今後も市民に身近なごみ問題について取り組んでいきます。



**仁田まさとし プロフィール**  
■健康福祉・医療委員会  
■デジタル化推進特別委員会  
◇施政方針は「動く、創る、変える。」  
ホームページ <http://www.nitta-mj.jp/>  
f t ライン 情報発信中